

金融リスクの計量化の再検討 統計データとは何か

東京大学大学院数理科学研究科 楠岡 成雄

JARIP 第 10 回大会 会長講演

2012 年 11 月 10 日（土）東京大学 駒場キャンパス 数理科学研究科棟

【楠岡】 どうもおはようございます。楠岡でございます。今日は会長講演ということで、あまり会長講演というのはやったことがないのですけれども、いつもだと講演というと「結果出さなきゃいけない」と思ってやるのですが、会長講演ということもありまして、今日は実は私の結果は一つもありません。古い結果が少し混じっているのですが、基本的にはありません。かつ、結論も、話も何もかも全てアバウトで、「何をやってるんだ」と言われてしまうかもしれませんが、考えをお話しさせていただきます。ですから、今日の話は、最初は数学的で後は全く文科的な、理科系とは思えないような話になると思います。

最初に金融リスクの計量化の再検討ということで、今回の話は検討するばかりで、少しも先へは進まないのですが、金融リスクの計量化ということはずっとやられてきたわけです。後のスライドに行ってしまうかもしれませんが、結局、金融リスクというものの計量化について数学的な研究も相当進んでいって、その中でフレームワークなどをいろいろと作っていったわけなのですが、しかしながら、そのように積み上げてきたものがリーマンショックによって破れ去ったといえますか、密かにですけれども、どうも大きな間違いをしでかしていたというような反省があります。このような金融リスクについて特に大御所と言えるのは、今、ベルリンにおられるハンス・フェルマーというかたです。最近はお会いする機会もないのですが、彼がどのようなことを考えているのかと思ってホームページなどを見ていますと、最近このようなレビューを書かれていて、